

2

2018

三重病院

ニュースレター

news letter vol.222



- 01 あなたの健康と甲状腺疾患について
- 02 「臨床研究部からのお便り」—第2回—
重症心身障がい児者等支援者等育成研修を実施して
三重病院のサラメシ²⁰
- 03 「やまばとギャラリー」情報コーナー
5病棟の生活のひとコマ³³
医療安全川柳〈2月〉
- 04 アレルギー教室のクッキング
外来からのお知らせ／外来診察のご案内

あなたの健康と甲状腺疾患について

我が国における甲状腺疾患の罹患数は500～700万人でそのうち治療が必要な患者は約240万人と推定されています。しかし実際に治療を受けているのは約45万人と報告されており、未治療の方が多く存在していると言われています。

甲状腺は前頸部にある蝶のような形のホルモンを産生する小さな臓器です。甲状腺ホルモンは生体の正常な成長や発達、新陳代謝に必須のホルモンです。ホルモンの高低により3つに分類できます。



①甲状腺中毒症

(バセドウ病 無痛性甲状腺炎など)

多汗、暑がり、手の震え、動機、倦怠感、食欲亢進、体重減少、筋力低下、頻脈、心房細動など。
高齢になると、症状が分かりにくくなります。体重減少や食欲不振から悪性疾患が疑われたり、心疾患と間違われやすい症状がでるため注意が必要です。

②甲状腺機能低下症

(橋本病など)

寒がり、浮腫、皮膚の乾燥、便秘、記憶力減退、体重増加、倦怠感、徐脈など。
高コレステロール血症や肝機能異常に、甲状腺機能低下症が隠れている場合もあります。うつ病や認知症との鑑別も必要になります。また、妊娠出産時期の女性では、ホルモン低値が不妊や流産、胎児の成長に影響するため注意が必要です。

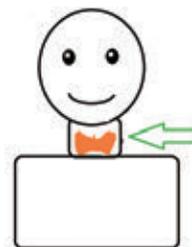
③甲状腺機能正常

(甲状腺のう胞 甲状腺腫瘍 橋本病など)

症状がない場合、検診で甲状腺の腫れを指摘され、発見されることもあります。



甲状腺疾患は女性に多く、思春期、妊娠、出産後、更年期によく似た症状が出現することもあり、ライフスタイルにも密接に関係しています。採血やエコー検査で見つけられる病気ですので、気になる症状がある場合は医師に相談しましょう。(内科医師 橋本 礼)



5月25日は世界甲状腺デーです(日本甲状腺学会ホームページより)

